

日本人のための日本語マニュアル

2015年2月24日

日本語マニュアルの会

「日本人のための日本語マニュアル」が必要である

- 日本人は、日本語を使えるが日本語の仕組みを十分に知っているわけではない。
- 日本語文章の分析能力を養成するための「日本人のための日本語マニュアル」が必要である。
- 本年9月上梓を目標に「日本語マニュアルの会」がマニュアル制作を進めている。

日本語マニュアルの会

横井俊夫(東京工科大学名誉教授、Japio特許情報研究所顧問)

石崎 俊(慶応大学名誉教授)

佐野 洋(東京外国語大学教授)

石黒 圭(一橋大学教授)

猪野真理枝(翻訳家、語学教材作家)

烏日哲<ウリジャ>(一橋大学国際教育センター非常勤講師)

(とりあえず年齢順に)

「日本人のための日本語マニュアル」の構成

『日本人のための日本語マニュアル

-言葉の仕組みを学び、外国語との対照を通じて日本語スキルを磨く-』

はじめに マニュアルの目的、マニュアルの構成と利用の仕方

1章 文書・文章ライティングのモデルプロセスを学ぶ

2章 情報を表し情報を伝える言葉の仕組みを学ぶ

-日本語と外国語とを照らし合わす-

3章 「表す日本語」へと言い換え、「伝える日本語」へと言い換える

4章 「訳せる日本語」へと言い換える

5章 コンピュータの支援機能を活用する-文章校正ソフトと機械翻訳ソフト-

おわりに さらになるスキルアップのために-参考資料-

それぞれがそれぞれのライティングマニュアルを

- 産業日本語を定着させるためには、それぞれの機関・組織・業界・分野がそれぞれの文書目的に沿ったライティングマニュアルを整備しなければならない。
- 本マニュアルが各所での整備作業の一助となることを願うと共に、そうなるための効果的な仕組を用意する。

産業日本語活動のための仕組作りに向けて

(1) ライティングルール(言い換えルール)記述の共通フォーマット

- 人が理解し易いルール記述から、コンピュータ用の形式的ルール記述まで
- マニュアルのルール記述から、文書処理ソフトのインタフェース記述まで
- スキーマ的なルール記述から、事例的なルール記述まで

(2) 「日本人のための日本語マニュアル」のライティングルールの公開

- 日本語マニュアル制作のソーシャルネットワーク
- ライティングルールの共有知化
- 老若協創のモデル作り

(3) 産業日本語ガイドライン策定の提案

- それぞれのライティングマニュアル整備のためのガイドライン
- ライティング支援ツール開発のためのガイドライン
- 統合的な文書作成・再利用環境整備のためのガイドライン

なぜ、日本人に日本語のマニュアルが必要なのか

「使える」と「知っている」は別、「知って使える」のが一番

身体能力の基本は暗黙知、使えるが知っているわけではない

- 身体能力の高度化、障害の克服、コンピュータ化に対応するには、身体能力の仕組みを知らねばならない
- 言語能力(特に、会話能力)も身体能力のひとつ

言語教育における課題

- 国語教育は、重要な日本語文化・日本文化の教育が主眼、日本語のツールスキルとしての教育が希薄
- 国語教育と英語教育との間に、言葉のスキル教育としての連携が希薄

なぜ、今、日本語、そして、日本語マニュアルなのか

(1) 潜在的ニーズの高まり

- 産業活動のグローバル化 →世界へ日本語を開く
- 産業活動の構造変化 →ジャーゴン化を排し、分野間に日本語を開く
- 多様なメディア連携の環境 →メディア間に日本語を開く
- 産業活動の共通インフラとなるICT環境 →コンピュータに日本語を開く

(2) 潜在的ニーズを顕在的ニーズへ

- 日本語か英語かの二者択一を排し、複合的な社内言語システムの整備へ
- 日本語で考え、英語で伝え、さらに、中国語等々で伝える
- 実感できるメリットを提示する

(3) 日本語マニュアル整備への新たな基盤

- 言語学における進展、日本語教育における進展、言語処理における進展
- 諸成果を踏まえることによって、日本語トレーナーのスキル確立

産業文書・ビジネス文書

(1) 顧客サービス文書

ユーザマニュアル、社外Web

(2) 業務文書

業務連絡文書、業務報告書、業務提案書、議事録、社内Web、社内メール、社内SNS

(3) 技術文書

開発文書、障害対応文書、マニュアル(業務、操作、運用)、成果文書(技術報告書、発明提案書、学術論文)

(4) 法的文書

開示知財文書(特許、実用新案、商標、意匠)、守秘知財文書、契約書、規約・定款、コンプライアンス関連文書

文書と文章

文書 (document) の構造

それぞれの目的に沿った文書記載項目の構造、そして、記載項目を埋めて項目の内容となるのが文章

文章 (text) の構造

文書の記載項目の規定によって、一文、一語句の場合もあるが、基本の構造は、

文章 (text)

段 (paragraph)

文 (sentence)

語 (word)

文章特性に則した日本語ライティング

(1) 印象深さを重視する

読み手が共通に持つ知識や推論に大きく委ねることを前提に印象深くテンポ良く伝える日本語。ユーザマニュアルや報道記事などの顧客サービス系の文章特性。

(2) 正確さを重視する

読み手の知識や推論に依存する部分を確実なものに限定し、誤解が生じないように正確に効率よく伝える日本語。学術文書、技術文書、業務文書等々の文章特性。

(3) 厳格さを重視する

主旨に反する読み方ができないよう解釈を限定し厳格に伝える日本語。法的文書の文章特性。

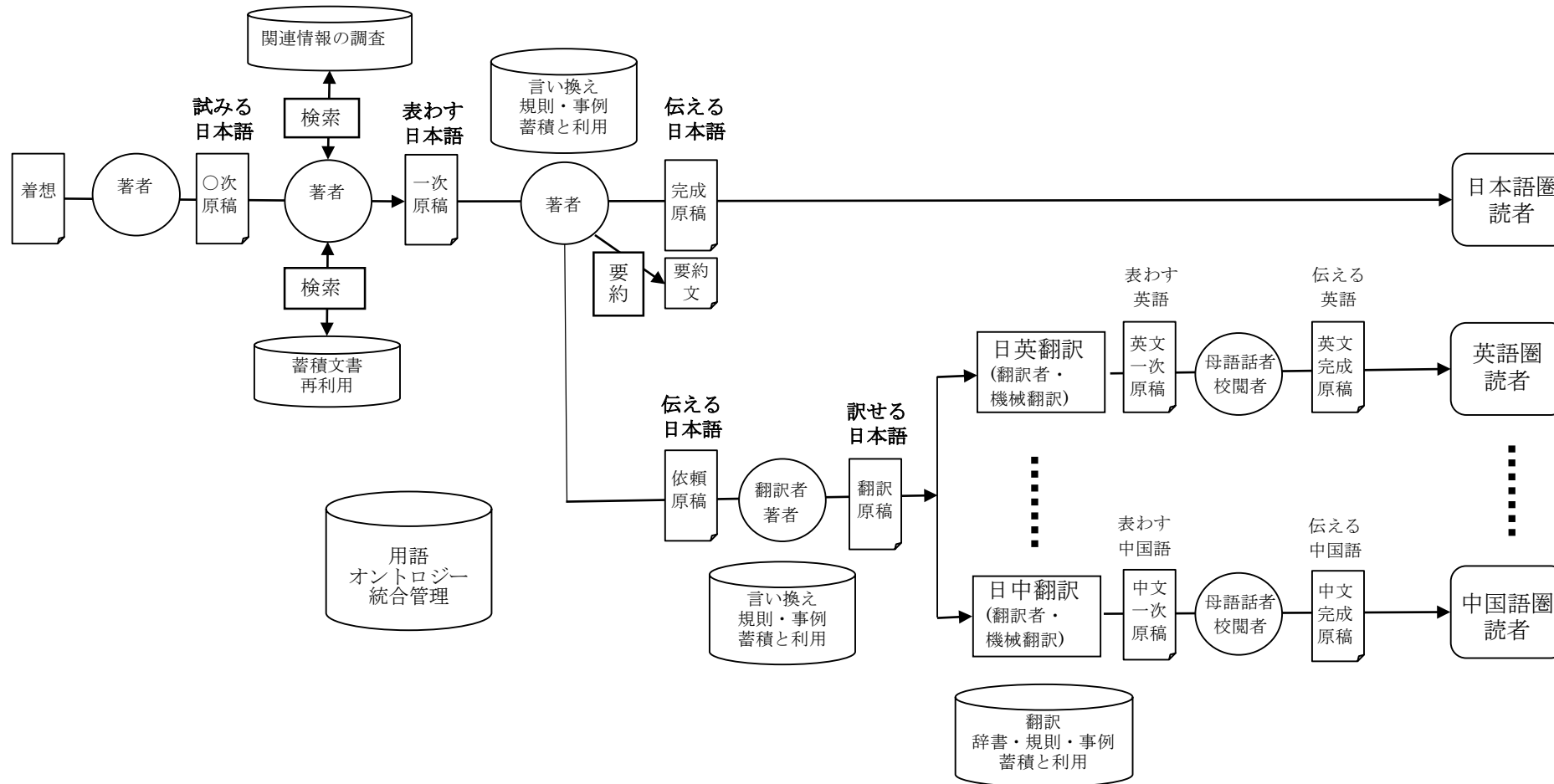
(4) 情感の豊かさを重視する

読み手の感興を刺激し、解釈を読み手の創造性に委ね、情感豊かに伝える日本語。文芸作品の文章特性。

(5) 対話性を重視する

読み手からの即時応答を前提とし書き言葉の記録性と話し言葉の即応性を併せ持つ日本語。電子メールやSNSメッセージなどの文章特性。

文書・文章ライティングのモデルプロセス



「試みる日本語」

思考のツールとしての機能に重きを置いた日本語である。思考のダイナミズムを加速する柔軟さ、時には、いい加減さが求められる。

「表わす日本語」

思考の精密化というプロセスを伴って、表現対象に注視し、表現対象を適切に確定し、表現対象を的確に表現する日本語である。

「伝える日本語」

読み手(読者)の知識や読み手の立場を考慮し、読み手が効率良く間違いなく読み取れるようにする日本語である。

「訳せる日本語」

外国語へ直訳できる日本語である。文を超える構成成分に関しては線形翻訳できるとし、連語以下の非線形成分は対訳辞書に登録されているとし、焦点を文レベルに絞る。

「機械が訳せる日本語」

容易な後編集を伴って正しく機械翻訳できる日本語である。短文化と適切な辞書登録が必要である。

「機械が探せる日本語」

「機械が約せる日本語」

情報を表わし伝える言葉の仕組

言葉の仕組を、言語学の解説としてではなく、文章実務のための文章分析スキルとなるように説く

それぞれの言語に共通となる仕組

「絵にも描けない美しさ」、この美しさを絵に描くことは出来ないが、

「言葉に言い表せない驚き」、この驚きは言葉で言い表せている。何故か？

- ① 記号性・分節性・概念性・範疇性・高階性
- ② 線状性(音声言語が優位)
- ③ 表現の経済性(読み手(聞き手)の知識を前提とした表現)
- ④ 表現メディア間の連携性(多様な表現メディアを結びつける機能)
- ⑤ 柔軟な規則性(プロトタイプと周辺事例)

それぞれの言語に特有の仕組

「今日書店で先生が本を買う。」

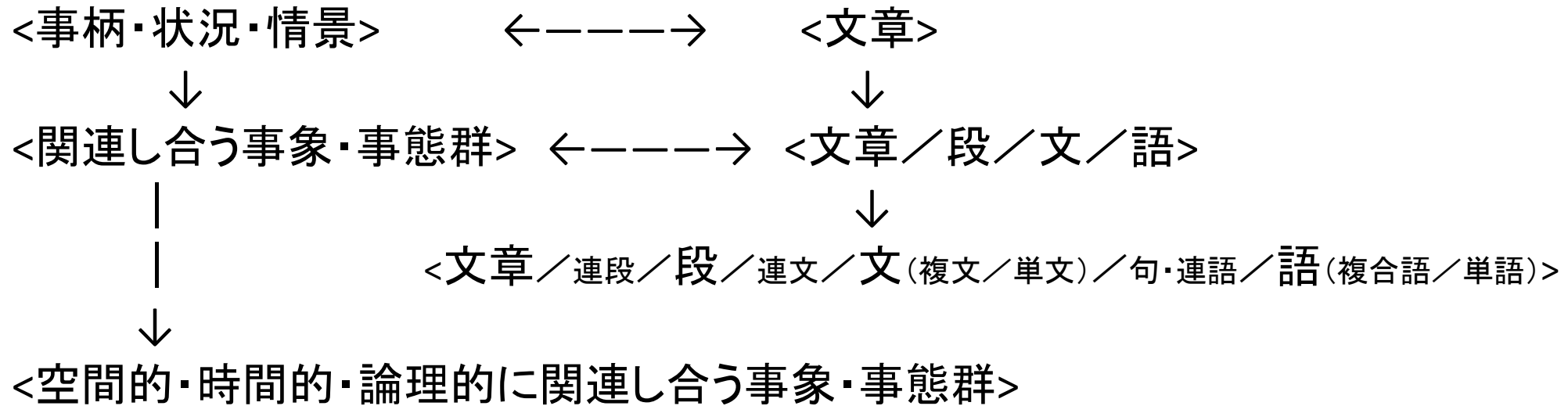
“The teacher buys a book in the bookstore today.”

「老師今天在書店買書。」

それぞれの言語に共通となる仕組

情報：四次元に展開するひとつの事柄(物事の様子・事情・内容)

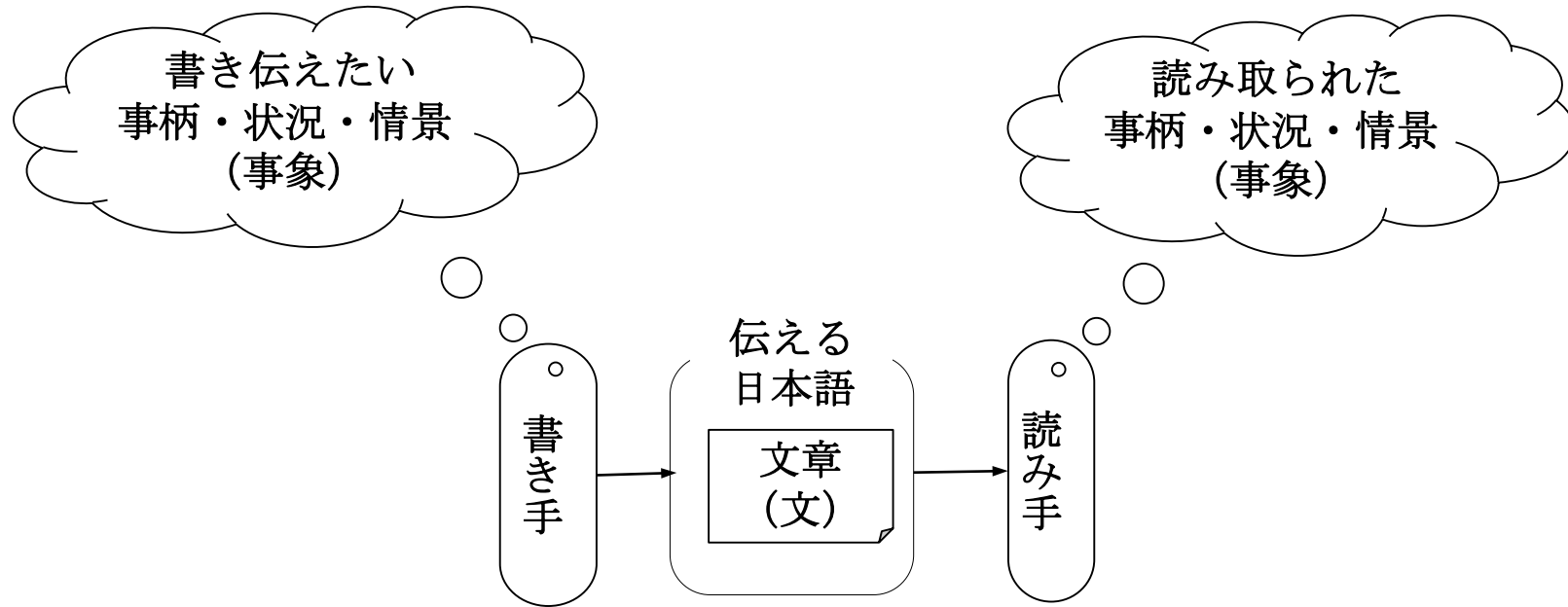
表現：一次元(書き言葉は二次元的表現要素を含む)に展開する文章



まずは、

<事象・事態> ←———→ <単文>

明晰な情報伝達



<書き伝えたい事柄・状況・情景 (事象) > = <読み取られた事柄・状況・情景 (事象) >
しかも、効率良く読み取れること

事象を構成するもの

事象そのもの(事象の客観的側面)

<コト>+<係わるモノ>+<状況を構成するモノ>+<アスペクト性>+<テンス性>

書き手の捉え方(事象の主観的側面)

<モダリティ性>+<取り立て>+<強調・焦点>+<否定>+<読み手の位置づけ方>

読み手への伝え方(事象の談話的側面)

<既出情報・旧情報>+<未出情報・新情報>

それぞれの言語に特有の仕組

まずは、事象の言語表現に関して

事象そのものの表現法

通常、日本語はSOV、英語や中国語はSVOといわれていること

書き手の捉え方の表現法

通常、態度表現、待遇表現等々といわれていること

読み手への伝え方の表現法

通常、情報構造といわれていること

事象そのものの表現法

日本語

<何時><何処>で<誰>が<何>を<どう>する／<どう>した／<どう>している。。

英語

<誰> <どう>／<どう>ed／will <どう>／be <どう>ing <何> in <何処> <何時>.

中国語

<誰><何時>在<何処><どう>／<どう>了<何>。

読み手への伝え方の表現法

<既出情報・旧情報>を前方に、<未出情報・新情報>を後方には言語共通

日本語

<主題>: <既出情報・旧情報> ← 場の設定

<題述>: <未出情報・新情報> ← 場における事象

英語

<主語>: <既出情報・旧情報> ← 定冠詞

<述部>: <未出情報・新情報> ← 不定冠詞

主語卓立言語と題目卓立言語

[+題目卓立 -主語卓立]言語: 中国語、ラフ語、リス語

[-題目卓立 +主語卓立]言語: 印欧語族、ニジェール・コンゴ語族、セム語族

[+題目卓立 +主語卓立]言語: 日本語、韓国語

[-題目卓立 -主語卓立]言語: タガログ語、イロカノ語

資料1: 共通に参照する資料

日本語マニュアルの会のメンバーがマニュアル制作に際して、共通に参照する資料であり、より高いスキルアップを目指すマニュアルユーザーへの推奨資料である。

- (1) 日本語マニュアルの会のメンバーの執筆文献
- (2) 代表的なライティング指南書
- (3) 日本語に関する事典・辞典
- (4) 外国人のための日本語教育の教師用ハンドブック
- (5) 日本語と外国語(特に、英語)との対照
- (6) 中国語文法への入門書
- (7) 日本語の表記に関する規範

資料2: 日本語文章力に関する出版物